

裸のキッス (1964)

THE NAKED KISS

メディア 映画

ジャンル ドラマ

製作国 アメリカ

色彩 B&W

時間 92分

初公開日 1990/12/22

公開情報 ユーロスペース

【キャッチコピー】

異常な感覚の世界フラー最高傑作の日本初公開！

【解説】

度胆を抜く開幕である。C・タワーズの娼婦がいきなりカメラに向かって殴りかかる。無論、その先に相手はいて、それは彼女の金をごまかしていた淫売屋の主だ。興奮した彼女がカツラを飛ばすと、坊主頭が観客の目に飛び込んでくる。この印象的な出だしが、映画の後半では、若干かたちを変えて繰り返される。ある時、孤独な娼婦に意外な来客があった。町の信望を一身に集める、警察官のグリフである。彼は、彼女ケリーに同情的で、また彼女も彼を愛するようになり、独立記念日に娼婦を辞めようと決意する。おりしも、町では子供の行方不明事件が多発し、グリフは憤りを彼女に洩らすのだが……。複雑なグリフの役を、初めは、監督フラーの友人ロバート・ライアンが望んでいたという。結局、病気で断念したそうだが、もし実現していれば、より膨らみのある作品となっただろう。タワーズの迫力だけとて、とんでもない映画である。小さな町の閉鎖性に虐げられてきた娼婦は、最後の一転、聖女扱いされる。ここに至って、フラーの描きたかったのは、病的な小児愛の衝撃ではなく、アメリカン・モラルの抱える偽善の問題であると明らかになる。様々な人種の子供たちが一緒になって走る、娼婦の夢のシーンも、その点を際立たせる。しかし、興行的には完敗し、以後、フラーの製作ペースは極端に落ちることになる。

【クレジット】

監督	サミュエル・フラー	Samuel Fuller
製作	サミュエル・フラー	Samuel Fuller
脚本	サミュエル・フラー	Samuel Fuller
撮影	スタンリー・コルテス	Stanley Cortez
音楽	ポール・ダンラップ	Paul Dunlap
出演	コンスタンス・タワーズ	Constance Towers
	マイケル・ダンテ	Michael Dante
	アンソニー・アイズリー	Anthony Eisley
	ヴァージニア・グレイ	Virginia Grey
	パッツィ・ケリー	Patsy Kelly